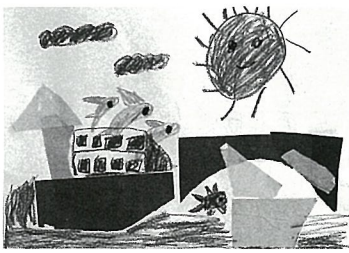




1年 須合 紘平さん



『いろいろなかみで』

※紙をちぎったのが、おもしろかったよ。並べたら、船や橋の形になったよ。



2年 宮内 玲奈さん



『こんな花があったらいいな』

※わたしは、こんなお花があったら、あへやかにざりたいなと思ってかきました。

あつまれ みんなの力作



『ぞうの水あそび』



3年 林 美穂さん

※わたや毛糸を使って二頭のぞうが楽しくあそんでいるようすを作りました。

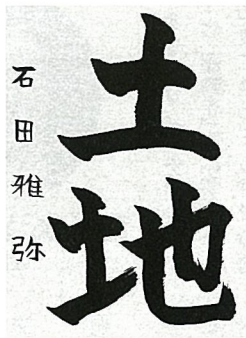


4年 高橋 溜華さん

※光の止めるところと、はねるところが、おもしろかったです。



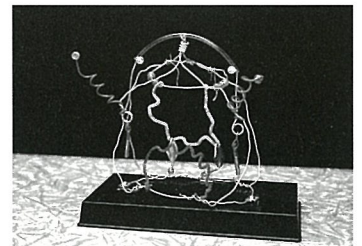
5年 石田 雅弥さん



※「へん」と「つくり」の高さとはばに気をつけて書くことができました。



6年 大木 香苗さん



『グニャグニャユラユラ』

※やじるべいのようにゆらゆらに作りました。バランスをとるのがむずかかったです。



ひかり俳壇



越川せつ子 (篠本)

パンパース逃げまわる児の更衣

入浴後の幼児が素裸のままよく見せる光景であり愛らしい自己主張でもある

土屋 義昭 (虫生)

古き服捨てて心の更衣

着古した春服を脱ぎ捨てて心まで更衣の気分を満たされた下五句が作品を締めた

越川 福子 (宮内)

更衣い母縫いくれし紺紺

更衣母の手縫いの紺紺と詠みた

川島 通則 (二又)

更衣二ノ腕眩し街往く娘

伊藤 定男 (尾垂)

更衣箆笥のかほり身に纏う

川島 重一 (尾垂)

衣を更へて慈母観音に詣でけり

短評 椎名しげる

評者詠

仁王門潜りて牡丹の園に遭う